

## すばる望遠鏡のコロナグラフによる原始惑星の探査

### Subaru Coronagraphic Search for Proto-Planets

# 伊藤 洋一[1]

# Yoichi Itoh[1]

[1] 神戸大、自然

[1] Grad. School Sci/Tech, Kobe Univ.

<http://zodi.planet.sci.kobe-u.ac.jp/~yito>

すばる望遠鏡の観測装置の一つ、CIAO(Coronagraphic Imager with Adaptive Optics)は、補償光学とコロナグラフを組み合わせることによって、明るい天体のごく近傍に存在する暗い天体を検出する、世界的にもユニークな近赤外域の観測装置である。CIAOは、中心天体から0.5秒程度離れた位置で0.1秒以下の空間分解能を有し、中心天体から10等以上暗い天体の検出が可能である。このような特徴を生かし、我々はすばる望遠鏡の試験観測フェーズにおいて、系外惑星、原始惑星、原始惑星系円盤の観測を行ってきた。その結果、GG Tauに付随する原始惑星系円盤の観測からは、ハッブル宇宙望遠鏡による観測よりも高空間分解能で、よりS/Nの高いデータを、CIAOによって取得できることがわかった。講演ではGG Tauの原始惑星系円盤をはじめ、T Tauri型星に付随する原始惑星、原始惑星系円盤の観測結果について発表する。